

2026年  
1月1日  
第2号

# ほくとぴあ

第31回全国交流集会  
東京現地実行委員会ニュース  
発行責任者 高井 豊治  
編集責任者 古城 育子



2025年11月23日第2回現地実行委員会にて

合言葉は

「参加者から創る側へ」

スローガン

継続は力、

次世代とともに創り、次への一歩へ

第31回全国交流集会に向けて、東京都協連は今までにない、現地実行委員会体制作りに取り組み「参加者から創る側へ」を合言葉に、1人でも多くの仲間が実行委員会へ参加をしようと、呼び掛けをしてきました。文化発表を例にすれば、これまでは演者の頑張りで行っていましたが、今回は1年を通した準備が必要であり、各県協の数多くの会員が関わらないと、発表できない内容になっています。出来不出来は別にして、各人が自分たちの発表との意識を持てたことが、東京ブロックの最大の成果です。それは当初の目標とした、自分が創る側の1人として、全国交流集会を成功されとの決意となり、今後の友の会運動を進める力になります。

東京ブロックの参加者目標80名として、集会会場とホテルの移動や食事場所など不便もありますが、全力で受け入れ体制を作ります。

東京現地実行委員会事務局長 佐久間 和俊

## 2026年全国交流集会への東京ブロック 各県協の取り組み

東京ブロック 東部県協 “一人ひとりが創る！ 自分には何ができるか！”



第31回全国交流集会の成功に向け、東部県協では7月17日の県協四役会議にて現地実行委員会への参加について提案し、「参加するだけでなく、一人ひとりが創っていく全国交流集会へしていこう」と呼びかけてきました。自分には何ができるのか、友の会運動にどう関わっていくのかを大切にし、ニュース担当、文化担当、合唱担当を各会員が担っていくと共に各担当の責任者も確認してきました。

東京都協連でも現地実行委員会、また、年明けの1月17日に東部県協旗開きを開催していきます。全国交流集会

まで約半年です。東部県協四役会議、運営委員会にて、さらなる意思統一をし、本番に向け万全の準備をしていきたいと思ひます。

各担当者の会議、合唱の練習もはじまり本番に向けて準備を進めています。東部県協は12月14日に第47回東部県協総会、年明けの1月17日に東部県協旗開きを開催していきます。全国交流集会まで約半年ですが東部県協四役会議、運営委員会にて、さらなる意思統一をし、本番に向け万全の準備をしていきたいと思ひます。

## 東京ブロック 西部県協 “常に創る側を心掛け！更なる声掛けを！”

西部県協は、諸活動・諸行事への参加については「創る側」での参加を心掛けてきました。今回の全国交流集会の取り組みにおいても、運営委員会で議論を重ね、東京B現地実行委員会には、西部県協として積極的に関わりを持ち参加体制を実践しております。

実行委員長を担うTさんを先頭に、文化合唱にはF県協会長、文化発表はTg事務局長、それに、実行委員会ニューススタッフにはNt・Mu、両副会長、文化発表スタッフにはK副会長というように、西部県協四役全員が実行委員会に入り、来年の全国交流集会の成功に向け頑張っています。



また、全国交流集会への参加体制作りについては、西部県協参加目標の10名を目指し、友の会員と一緒に参加できるよう学習会で「声かけ」をしています。今後も、集会の成功に向け、西部県協は一丸となり努力していきます。

### 東京観光案内 No.1

一般的な観光地は、みなさんネットで探す事ができると思いますので、まなぶ的な場所を今後ご案内したいと思います♪  
右の写真は、東京初の「九条の碑」です。足立区柳原の「柳原リハビリテーション病院」の隣接地にあります。最寄り駅は京成関屋駅で、徒歩約10分です。



九条の碑はステンレス製直径1mの球体/ピンク色の文字で輪を描くように条文が刻まれています。

### 2026現地実行委員会ニュース

#### Tシャツキャラクター決定！

まなぶの「MANA」と走れば回る風車から「RAN」を合体させて、  
まならん「MANARAN」と名付けました。

現地実行委員会ニュース班より

